



奈良県立医科大学

平成24年11月22日

武田科学振興財団 2012 年度「特定研究助成」に採択

本学の輸血部 藤村吉博教授を研究代表者として応募した「超巨大VWF多重体活性の制御機構を利用した新規動脈血栓症の予防・治療法の開発」が公益財団法人武田科学振興財団の2012年度「特定研究助成」（贈呈金額：5,000万円）に選考され、11月12日にシェラトン都ホテル東京において贈呈が行われました。

「特定研究助成」は、我が国の医学の発展に向け、研究機関が総力をあげて取り組む共同研究（学内または複数機関の融合研究）に対して助成されるもので、異分野間の研究、申請機関の注力研究・特有の研究、難病疾患研究などを重視した先見性・独創性の高い研究が対象とされます。

同助成の採択は本学にとっては初めてのことであり、助成研究の実施により血栓性微小血管障害症から急性心筋梗塞および脳梗塞に至る広範囲の動脈血栓症に共通する新規予防法・治療法の開発に向けて成果が期待されます。

研究代表者のコメント

過去ほぼ30年間、ライフワークとして行ってきた血栓止血学研究が実を結び、2008年には研究者個人に対するベルツ賞を、また今回は同テーマの共同研究組織に対して武田科学特定研究助成賞を頂いた事に喜びと誇りを感じています。

助成研究テーマ

「超巨大VWF多重体活性の制御機構を利用した新規動脈血栓症の予防・治療法の開発」

VWF（フォンビルブランド因子）は現在、最も注目されている蛋白の一つで、本来は血小板同士をくっつける分子糊作用を持っています。この作用が強すぎると血小板が過凝集して血栓となり、逆に弱すぎると出血を起こします。従って、「この因子の機能調節を行うことにより、体の循環機能を正常に保つ」というのが私共の共通の研究テーマです。



奈良県立医科大学 殿

貴機関の「超巨大VWF多重体活性の制御機構を利用した新規動脈血栓症の予防・治療法の開発」についての研究が、2012年度「特定研究助成」の研究助成対象に決定しましたので、研究助成金5,000万円を贈呈いたします。

記

1. 研究代表者

藤村吉博 先生 奈良県立医科大学 輸血部 教授

2. 共同研究者

齋藤能彦 先生 奈良県立医科大学 第一内科学教室 教授

杉本充彦 先生 奈良県立医科大学 血栓制御医学講座 教授

福井博 先生 奈良県立医科大学 第三内科学教室 教授

木村弘 先生 奈良県立医科大学 第二内科学教室 教授

嶋緑倫 先生 奈良県立医科大学 小児科学教室 教授

中瀬裕之 先生 奈良県立医科大学 脳神経外科学教室 教授

中島祥介 先生 奈良県立医科大学 消化器外科・小児外科・乳腺外科教室 教授

奥地一夫 先生 奈良県立医科大学 救急医学教室 教授

和中明生 先生 奈良県立医科大学 第二解剖学教室 教授

西尾健治 先生 奈良県立医科大学 総合医療学 准教授

松本雅則 先生 奈良県立医科大学 輸血部 准教授

以上

2012年11月

公益財団法人 武田科学振興財団

理事長 横山

